
でびさばっ

難斗那区

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
でびさばっ

【Nコード】
N4747U

【作者名】
難斗那区

【あらすじ】
この作品は作者の息抜きと勢いと見切り発車で生み出されています。極力、プレイしたことが無い人にも判る様に出来たら良いなと思っ

てはいますが保障は出来ません。

あと、この作品には主人公（ある意味）最強？ 運チート？ 多重クロス、独自設定、設定改変が含まれるかもしれませんが。

ハーレムとかはやらないつもりですが確約は出来ません。

シリアスは先ず有り得ません。ご都合主義と勘違いもあるかも。

それでも良いところの方はぜひ。

はじめてのあくまがり（前書き）

という訳でやってみました。

こちらに何も作品を載せず、只管読む（予定の）作品ばかりが積み上がって本棚か倉庫みたいになっていきますが、自作だけすつからかんだったのでとりあえず思いついたのを書いてみよう。じゃあ最近久々にやったアレにしようという事でこれになりました。

主人公は自分の作品常連の男です。

はじめてのあくまがり

ある日の帰り道。

何時もの様に俺と一樹は並んで帰り。

何時ものルートを通り。

久しぶりにもう一人の居ない状態でヤンキーに絡まれ、それを片付けたところで、光に包まれた。

ちいちゃんの言ったとおり、ホントに魔法はあったんだな

「冷静だなカナちゃん」

そんな事を言われても、慌てたところでどうにかなるものでもないし。

そして、光が晴れたそこは、何時もの町並みとは違った景色が広がる場所だった。

どうやら、俺達はレポートを体験したようだ。原因はさっぱりだが。

しかし、どうやらぼうつとしていた場合ではなかったようだ。

一樹の方を振り向いたところ、その俺の顔の直ぐ横で風切り音がした。

咄嗟に距離を取りつつ振り向くと、其処には二足歩行の犬が棍棒を振り下ろした体勢で突っ立っている。

気ぐるみにしては細い手足だ。しかも可愛くない。

更に棍棒も、おもちゃの類では決して無さそうだ。

俺は二足歩行の犬（仮）を気にしつつも一樹の方を向く。

そして、惨劇を目にした。

高く、そして徐々に小さくなる悲鳴、そして断末魔に双方動きが止まる。一樹だけはそのまま流れるように武器を持ち替え、スタン警棒を取り出していたが。

次いで、一樹の奇行にそれなりに耐性のある俺が正気に戻り、俺より若干遅れて行動を再開したコボルト（仮）に先んじてスライディングキックを放つ。

そして蟹挟みで両足を挟んで転ばし、両足を抱えて俺に出せる最
高速度できっかり五分、攻撃を加え、相手を屈服させたのだった。

「オレハコボルト、コンゴトモヨロシク」

目の前で、毛むくじゃらに申し訳程度に服を着た二足歩行の犬モ
ドキがそう言ってくる。

すっげえ嫌そうな雰囲気醸し出しながら。何せ、滅茶苦茶棒読
みだし。感情が感じられない。

さっきは元気いっぱいに棍棒を振り上げ、襲い掛かってきたとい
うのに。

「そりゃそうだろ。」

あんな方法でやられたら」

一樹は「それも当然」とばかりにうんうん頷いている。

電気あんまの何がいけなかったと言うのだろうか？

武器も無い俺が、相手を効果的に無力化するには割と良い手だ

と思うのだが。

やはり悲鳴を通り越して泡を噴くまで延々とやり続けたのが拙かったのだろうか。

「俺みたいに普通に殴り倒せば良かったのに」

いや、お前のは全然普通じゃなかったろ。

スタン警棒でボコ殴りにするのは普通とは言わない。間違いなく俺の言葉にうんうん頷く被害者こと猫っばい奴。

やっぱり普通ではないようだ、普通でない存在からしても。

因みに、ホントはもう一匹、フェアリーみたいのが居たのだが、今は居ない。

運悪く真っ先に一樹に狙いをつけたフェアリーは、逆に一樹のナイフ捌きによって羽を切り落とされ、サブマシンガンで原型が判らなくなるくらいミンチにされた。

原理は判らんが死体が消えてよかった。なまじ元の姿が元の姿だから具合悪くなる事必至だ。

ていうか、残すならどう考えてもあのフェアリー（仮）だろうに、何でそれ以外が残ってしまうのか。

気を取り直して辺りを見回すと、正直見たくなかった光景が目に見る。

五人分の死体である。しかも内二人は頭をカチ割られている。間違いないコボルトの犯行だ。

序に残りは一人殴殺、二人焼死といった所か。

しかし、何故俺はこんなに冷静なんだろうか？

考え込む俺。

そして辺りを見回しつつ、何故か地面に落ちてる携帯ゲーム機を拾う一樹。

「しかし、何でこんな所でゲームしてるんだ？
幾ら携帯ゲーム機だからって……態々大の大人が五人も揃って外
でする事じゃないだろ」

宗教のグッズなんじゃねえの？ ゲーム心理教とかそんなん。
全員信者っぽい服着てるし。

俺の言葉に、「成る程」と納得した様子の一樹。
いや、納得されても困るんだが。

とりあえず売れば金になるかなと思いつつ全部回収したのだが、
内二つはぶっ壊れているようである。

一応、暇潰しに使えるそうなので俺と一樹で各一個確保し、一つは
その内売っ払おうという事で結論を出した。

人選ミスの代償は……。 (前書き)

早くベル・デル戦を書きたい。

しかし書くのが遅いので一体何時になるやら。

まあこの話自体はそんなに長く続ける気はありません (予定) が。

人選ミスの代償は……。

とりあえず、そこらの案内板を頼りに駅にまで辿り着いたのだが、何故か封鎖されている。

やはり出たいと思ってるのは俺等だけではない様で、集まった様々な年齢の人ごみと自衛隊らしき連中が睨み合いをしている。しかし、ただ封鎖されてるだけにしては様子が只事ではない。心なしか自衛隊っぽい連中の方はやたらと緊張感を漂わせていた。

一樹君、ちょっと君行つて風穴開けてきてくんね？

「無茶言つなカナちゃん。

あいつ等目が本気すぎるぞ？ 強引に突破しようとしたら多分撃ち殺される」

何でそんな位で撃ち殺されねばならないのか。

正体不明な凶悪な犯罪者集団でものさばってるのだろうか。

……いや、凶悪かは兎も角確かに正体不明の連中は居る様だけど。

俺は懐から取り出したゲーム機、COMPに視線を落とす。

あの後、何故か嫌そうにしながらも「契約だから」とかぬかしてついで来ようとするコボルト達とひと悶着あつたのだが、それを解決してくれたのがこのCOMPである。

……ゲーム機でなかったのには少し落ち込んだが。

仕組みはわからないが、これのヘルプを参照に操作した結果、こいつ等（アクマと総称するらしい）を自在に出し入れ出来る事が判つたのだ。

これで着ぐるみですとかペットですとか誤魔化せそうにも無い言い訳を考える必要も無くなる。

まあ、こいつらがついて来なければそもそもそんな事で悩む事も無かったのだが。

そんなに嫌ならついて来なければいいのに。

ところで、俺らの頭の上に丸棒と数字が浮かんでるんだが、これ、どう思う？

「さあな……人数ではないようだし、数字も人によってまちまちだな。」

ただ、字の大きさからして一桁以上は入らん。

あと、5以降の数字が少なめだな、8とか9とかは一人も見えん」

ホントに何なんだろうか？

因みに俺らの頭の数字は3である。

しかし、何が「3」なんだろうか？

少し考えてみたが、判らんモンを何時までも考えてても仕方が無いので、とりあえず情報を集める事にする。

辺りを見回して、この状況について詳しくそうなのを探したところ、「二階堂さん」とか呼ばれつつ下っ端らしきヤンキーに指示を出す茶髪の、如何にもヤンキーな男が視界に映った。

あの男にしようと思ひ、近付き声をかける。

なあ、イキナリで何だが、ちょっと聞きたい事があるんで、その路地裏にでも行かぬ？

俺的には、みんな知ってそうな事を聞くのは田舎者丸出しみたいで嫌だから、どっかあんまり人気のない場所で話をしたいと思ひ、

そう声をかけたのだが。

しかし見た目からしてヤンキーのその男は、そうは取ってくれなかったらしい。

「いいぜ、行ってやるよ」とか快く同意してくれたっぽかったその男は、路地裏に入るなり振り返り、俺を睨みつけながら拳を構えた。

「ちようどもシヤクシヤしてたトコだったんだ。

誰に喧嘩売ったのか教えてやんよ！」

どうやら、俺の言葉は男にとって、喧嘩売ります的な意味に取られてしまったらしい。

しかも、誤解を解こうにも相手は既に臨戦態勢。とてもじゃないが話を聞いてくれそうな雰囲気じゃない。

俺の声かけが拙かったのか、それとも俺の容姿のせいか。

兎も角、このあたりの事情に詳しくそうな目の前の男からそれを聞くのは、断念しなければならぬようだ。

なあ、もしかしてこの頭の数字ってヒットポイント的な何かじゃないか？

事を済ませた俺は立ち上がりながら元来た道に戻る。

俺がそう思ったのは、男が気絶した直ぐ後、男の頭上の数字が「0」に変わったからだ。

つまり、気絶したからヒットポイント的なものが減って数字が「0」になったという訳だ。

喧嘩？ 勿論勝ちましたが何か？

「いやそりゃ無いだろ。」

俺は兎も角、フィジカル面がバケモンみたいなカナちゃんがこの男に体力負けするとは思えん」

そうか。

良いセン行ってると思ったのだが。

「しかし、また電気あんまか……何か拘りでもあるのか？」

いや、ただこう、知り合いの居ない場所で思いつきりはっちゃけて見たかったというか何と言うか、そんな感じだ。

流石に誰が何処で見てるかも判らん故郷周辺で、こんな事はしない。

しかし、一度くらい人目をはばからずに相手に思いつきり電気あんまかけて見たかったのだ。遊びじゃない、泡噴く位キツイのを。

とりあえず気絶した男を壁に寄りかからせて俺達は再び人ごみのある駅近辺へ戻ってきた。

男は気絶したままだが、まあ大丈夫だろう。直ぐに気がつくだろうし、そうすれば頭上の数字も元に戻ると思う。

そんな訳で、今度こそ、と思い誰か別の奴を探す。

と言っても、目安なんぞ判るわけもない。

とりあえずさっきの事からガラ悪そうなのは避け、普通そうな連中を選び出し、話を聞くと、割合アツサリ聞けた。

まあ、別に俺があんま大多数に聞かれたり見られたりするのが嫌なだけで、話自体は隠すような事じゃないから、俺がその辺のどこ

ろを我慢すれば問題は初めからなかったのだが。

聞くは一時の恥、という事で我慢する事としよう。
そんな事より大変な事が判ってしまったのだから。

アツロウ、ユズ、ユウヤと名乗るその三人組の学生（多分）からさり気なく話を聞いたのだが、どうやらこの頭の数字、寿命のようなもので、この日数分しか生きられないらしいのだ。

因みにこの三人は「1」だったりするが表面上は落ち着いて見える。

見えるだけなのか何か対策があるのかは定かではないが。

ただ、まだ何か隠してるような気がしたのでそれが少し気になる。

てかコレ、ヤバくね？

急いで、三人組との挨拶もそこそこに俺達は路地裏に戻ったのだが、どうやら遅かったらしい。

其処には、頭をカチ割られた男と、下手人らしき緑色の肌のアクマがいた。

どうでも良いが、連中の間では頭をカチ割るのが流行ってるんだろうか？ 電気あんまを多用してる俺に言えた義理は無いが。

人選ミスの代償は……。 (後書き)

原作主人公の名前は瀬戸^{セト} 悠也^{ユウヤ}です。

ゲームプレイ時、弟に「何かテキトーな名前無い？」と聞いたら五分で考えてくれました。

あと作者は別にカイドー嫌いじゃないですよ。2回目の一週目プレイはカイドールートだったし。

因みに一回目はジンルートで、攻略サイト等を読んでなかった自分はラスボス第二形態で詰みました。

努力だけじゃどうにもならない事だってある(笑)。(前書き)

主人公のレベルは15くらい。ただし打撃オンリーです。
物理吸収とか反射に遭ったらどうするんだろう。

……いや、俺の方がどう表現しようかで悩む。

努力だけじゃどうにもならない事だつてある（笑）。

緑の肌の悪魔を退けたので、とりあえず路地裏で休憩。
しかし、相手が三匹いたらやられていたかも知れない。
オーガという様だが、素手では中々に手強い相手だった。

「相変わらず見栄えの悪い戦い方だったな」

良いだろ、危なくなくて。

安全第一だ。

流石にコボルトとは体格が違う。

押さえ込む自信は俺にはない、という事で、俺が目の前に躍り出て注意をひきつけ、後ろからコボルトが羽交い絞めにした。

そして踏み込んで右ボディ。挟り込む様にボディ。執拗にボディ。カイドー君（仮）の仇！とばかりにボコボコにしてやった。

カイドー君（仮）の仇はキツチリ討つておいたぞ。
安らかに眠ってくれ。

とりあえずハンカチでも顔にかぶせておこうかと思ったのだが、残念ながら不真面目な俺がエチケット的にハンカチなぞ常日頃から持ち歩いてるはずも無い。

なので、代わりに汗でべとついた時とかに使ってるウェットティッシュをかけておく。

そして代わりに財布を頂いた。

ところでコボルト君、それともそっちの猫でもいいんだが、回復魔法とかねえの？

「オレハツカエナイ。

びくしーナラツカエタハズダケド……」

無言で俺とコボルトは銃の点検をしている一樹を見つめる。

視線に気付いた一樹は「ん？」と首を傾げた。

どうやら、問題視されてる事に気付いてない様だ。

回復役を真っ先にぶっ殺してどうすんだよお前は？

「今更その話題来るのか……もう片付いた話題だと思ってたんだがとりあえずコボルト、それからカブソ、気合で何とかならないか？」

「「ナラナイ（にゃ）」「」

仲良く否定のお返事。

まあ、判ってたけどな。

どう見たって回復できます系の雰囲気じゃねえしこいつ等。

しかし、東京封鎖とか経済とか政治とかそんなかなに問題はでないんだろうか？

そんな事を考え、一樹に対し疑問として口に出したら、バケモノを見るような目で見られた。

「カナちゃんが壊れた」とか言ってる。オイ其処、聞こえてんぞ。

俺がマトモな事を聞くのはそんなにおかしな事らしい。

とりあえず一樹は殴っておくとして、食料と寝床の確保をしなけ

ればなるまい。

という事でレッツ宗教。

神なぞ小指の先程も信じてないが、とりあえず集団に混じれば色々と便利だろうという事でCOMPとコボルト達を隠して翔門会とかいう連中の所へ行った。

「怪我をしているようですね」

偶々運が良かったのか、それとも全員にやってんのか知らないが、どうやら回復もしてくれるらしい。

俺の相手は、何か髪が花みたいな凄い事になってる奴だった。

流石に飾りか、それとも地毛だろうか、と悩む俺。

そんな俺の態度は、しかしどうやら相手の方には不審とか不安に映った様で、いきなり手をとられた。

別にそんな事しなくても逃げやしない。寧ろあんま触らないで欲しい、という事で自ら近づく俺。

そして、そんなタイミングでアクマ召喚。

結果、俺は現れた女神っぽいアクマの胸に見事に顔を埋める羽目になった。

アクマだろうがなんだろうが、女である事には変わりなかった様だ。凄い柔らかかった。

だが、相手を「女」だと認識した瞬間の条件反射の拳よりも遙かに早い一撃で、俺は相手の女アクマの悲鳴と共に宙を舞っていた。うん、その反応はやっぱり女だったな。

また遭ったよ、遭いたくなかったけどな！！（前書き）

主人公を吹っ飛ばしたのはラクシュミ（LV48女神）です。

また遭ったよ、遭いたくなかったけどな！！

「カナちゃん、翔門会には入れなくなつた」

気絶から目が覚めた俺に向かつて放たれた一樹の第一声は、気遣いでも慰めでもなく、そんな一言だった。

何故にホワイ？

話を聞くと、その後俺が花頭のアクマにぶつ飛ばされたせいどころ周辺がパニックに陥ってしまったのだそうだ。

どうやら、他の入信希望者には、俺があこのアクマの胸に顔を埋めた所は目に映っておらず、「翔門会のアクマに攻撃をされ吹き飛び、動かなくなった俺」の姿しか記憶に残らなかつた様だ。

お陰で翔門会の連中は大混乱。入信希望者達は逃げ出すし、一樹情報によると、既に入信している連中も騒いだり抜けたりしようとしてるらしい。

「アレは絶対翔門会の連中に目を付けられたぞ。

何せ、入信希望者を相当大量に逃してしまつた張本人だからな」

そんな心算はなかつたのだが。

というか、他の連中からすればラッキースケベ的な意味合いしか無いんだろうが俺本人にとっては甚だ不幸だし不本意な話だ。

女性恐怖症の俺にとって、相手が女だと認識できてしまつてる以上、あのイベントは俺にとつても地獄なのだ。

しかし、あまりにもタイミングが悪かった。いや、ある意味では

良かったのかも知れないが。

あの場面、相手が手を出すのが遅ければ、俺の拳が相手アクマに突き刺さっていた事だろう、効いたかどうかは兎も角。

相手にとつて悔やむべきは、あの女神のアクマが俺に比べて半端なく強かったという点だろうか。

けど、そんな派手にぶっ飛ばされた筈なのに、俺にダメージが残っていないのは何でだろうか？

首を傾げる俺に一樹は「あの花みたいな頭のアマネとかいうのがさつき来て治してった」と教えてくれた。

しかも、起きたら謝っておいて欲しいみたいな事を言っていたらしい。

ちよつと人が良すぎないかそいつ。

正直色々と心配な気がする。いや、治してくれたのは大変に有り難いが。

何かあったら借りを返すくらいはしようと思う。寧ろ借り増やしそうな気もするが。

しかし、真つ暗だな。

「全域で停電らしい。

食い物と水は一応確保しといたぞ」

一樹から水と食料を受け取って、少し考えた後それをしまつ。ヤバくなったら食おう、という事で。

まあ、飯抜きでも一月は保つというのが俺の密かな自慢の一つである。

……こういう普通じゃ無い状況でしか生かされないし、そんな状況には本音言うつと来て欲しくないが。

因みに今居る場所は墓場である。

薄気味悪い事この上ないが、翔門会からもしかすると追われるかも知れない立場にある以上、目立たないところを選ぶのは当然のことだし。

不満は勿論あるが。

ところで、さっきから周辺の警戒を頼んでいるコボルトが、何かやたらキラキラした目でこっちを見てくるのは何なんだろうか？

気にしないようにしてるのだがどうにも気になって仕方が無い。

という事で聞いてみたのだが。

俺がぶっ飛ばされた相手は、コボルトからすれば天と地ほども差のある相手らしく、そんな相手にぶっ飛ばされても生きてた俺を尊敬するらしい。

尊敬だけならまだいいが「オレト合体シテクレ！」とまで言われたのだが、プロポーズだろうかこれ？

ぶっっちゃけどんな意味合いであれお断り一択しか有り得ないのだが。

というか合体って何だ合体って。子供を作ります的な意味合いの隠喩か？

俺は攻めも受けもしたくない。あと相手は人間で異性で美人にして欲しい。俺個人は全くしたくないが手籠めなら何とか、何とか我慢できる……気がする。

そんな訳で判りやすく態度で示そうと思いき拳を全力で突き出したのだが、まだ闇に目が慣れてないせい、まだ眩暈がしてるせい、知らないが、コボルトを外れ、墓石を殴り飛ばしていた。

そして、空を飛ぶ墓石。

呆然と見守るカブソ、更に目を輝かせるコボルト、戦いの気配を感じたと言つて銃を構える一樹、そして漸く闇に目が慣れ、眩暈も落ち着いてきた俺の見守る中、空飛ぶ墓石は闇の中へ消え。そして少しして鈍い音と共に獣の呻き声のようなものが聞こえた。何かに当たってしまったらしい。しかも人でない何かに。

正直行きたくないが、不意を打たれるより先に相手の姿を確認しておいた方が良さだろうという一樹に従い、俺達は墓石の落ちた地点へと駆け付ける。

そして、そこには嘗て知り合つた連中が居た。

「貴方は……」

もうかよ！

借り返すどころか自分達の事すらままならねえよ！

しかも、駅前の三人組も居た。

あと、怪我してはいるが息はある様子の翔門会信者と、そして雪男っぽいアクマも。

どうやら、墓石は雪男っぽいアクマに当たつたらしい。召喚主さんごめんなさい。

また遭ったよ、遭いたくなかったけどな!! (後書き)

関わらせない心算だったのに人気のないところを探したら、墓原
作主人公組+ウエンディゴのコンボが発動。どうしてこうなった…
…。

デビオクに家電が陳列されてる件について（前書き）

同じデザイン担当だから良いじゃない。

名前に「ベル」つくから良いじゃない。

という事で登場しましたオリジナルベルの王候補。

深く考えてはいけません。あと冷蔵庫と神父も。

デビオクに家電が陳列されてる件について

問題が一つ、解決した。

と言っても、此処から出られる系の話ではなかったが。てか、そっちは無理なんじゃね、ということらしい。三人組の一人のソデコとかいうのは頑なに否定していたが。

解決した問題は、回復役について。

正直肉弾戦を連発したら俺は兎も角一樹は生傷が絶えないだろう。

だが、どうやらデビオクというのがあって、アクマがオークションに掛けられるらしい。

因みに競り落とす為の金は通りすがりのアクマをぶっ飛ばして得なければならんだそうだが。

あと、合体についても聞いた。

どうやらアクマ同士を合体させて違うアクマを生み出せるシステムがあるらしいのだ。

しかも基本只で。とりあえず値段よりも合体というのが俺の想像と違っていた事にまず安堵の息を吐いた。

三人組は不思議そうに俺を見ていた。

因みにあの雪男だが、俺の（図らずも放つ事になった）墓石アタックで足を痛めたらしく、逃げられなかったようだ。

恨みの籠った目で見られたが、気にしない事にする。

さて、足を痛めたとはいえ恐らくそれでも俺らでは敵う相手ではないだろう雪男、だが。

あの花の人に一発で焼き殺された。

花の人マジパネエ。

とりあえず戦闘能力的に恩を返すというのはほぼ無理そうだ。

一つ聞きたいのだが、此処はホントにデビオクの会場なんだろうか？

「はい。そうですが、何か……？」

流石に借りを返すどころかこのままでは借りを更に作ったうえ下手すりゃとっ捕まるといふ事で夜が明けある程度の視界が確保できるや否や俺達は動き出した。

勿論目的はデビオクとアクマ合体である。

回復役無しは流石にキツイので、テキトーに弱そうなのを見つけてはヤンキーばりに袋小路に連れ込んでボコつたり。

あとは一樹が銃撃したりコボルトが相手の頭をスイカに見立ててカチ割ってみたり肉体はメンバー唯一の魔法使いのカブソが肩身狭そうにしてたりしながらも涙無し感動無し嘲笑いありのすったもんだの末、稼いだ金額30000マツカ。

そんななけなしのマツカ（此処での通貨の単位らしい）を持ってきてみれば、案内されたのはこの場所だった。

何でも俺達は記念すべき100人目のお客様という事らしい。

ところで100人って多いのか少ないのかイマイチ判らないのだが。

律儀に答えを返してくれる執事風の服を着た灰色つばい肌の耳のデカイ爺さんは、青一色の部屋に住む鼻の長い爺さんを弟にもっているらしい。

激しくどうでもいい。

そんな事よりも、アクマのオークションに来た筈なのだが、此処に陳列されてる出品予定アクマの面々は一体どういう事なんだろうか。

正直、もっと普通(?)のアクマが欲しいのだが。

とりあえず、左から順に見てみる。

便座(青)、100マツカから。便座(桃)、150マツカから。箆笥、80マツカから。

もう一度言わせて欲しい。本当に此処はデビオクの会場なのだろうか。

もっと普通のを紹介して欲しいと思い、爺さんに文句を言おうとしたところ、二つの便座から同時に腕が生えた。

生えた腕は、椅子を持ち上げてみたりトイレトペーパーの色を白から青、黄に変えてみたりと何やら色んなアクションを行っている。もしかしてコレは売り込みなのだろうか？

もっと買いたくなるような売込みをして欲しい。少なくともこんな事されても引くだけだ。

「左から順に、ブキミちゃん様、花子さん様、箆笥ババア様でございますな」

「ちゃん」とか「さん」まで名前に含まれるらしい。

ところでこういうのって付喪神か悪霊なんじゃなかるうか？

これもアクマだというのなら、アクマというのは随分範囲が広い

ようだ。

とりあえずいらねえ。

その後も変なアクマ（？）のオンパレード。
もう出るわ出るわ。

テーブルに食器一式が乗ってて勝手に動くポルターガイスト。成程便利そうだが、そんな便利さを求めて此処にきた訳じゃない。却下。

謎の黒人神父ニヤルラトホテプ。ガタイが良くて何か強そうだが値段が異様に安いのが逆に畏臭いし名前が変なので却下。

メタトロン。確か天使の名前だったような気がするが目の前のソイツはどう鼻屑目に見てもロボコップだ、盾と剣持ってるけど。勿論却下。

12万なんつうバカ高い開始金額の冷蔵庫。円に直すと妙にリアルな金額になる気がする。

ソイツに至っては、三対六枚の純白の翼を広げ空を飛んで見せた。それは一体何をアピールしてる心算なんだ。もっと常識の範囲で判りやすいアピールをして欲しい。

まあどの道マツカが全然足りないので却下。

ベル・ベリトを退けながらも王座に興味無いベルの王、ベルバウ。

デザイン系統は確かにアクマと同類だが、どう見てもロボットです本当に（ry。

しかも値段が書いてない。聞いてみるとロボットの方で人を選ぶらしい。そんなモンを置くな！

あとベルベリトって誰だ。それとベルの王って何だ。

どうやら此処は記念すべき百人目という事で特別に通された「マニアック」ランクのオークション会場で、本当は「普通」ランクから始まるらしい。

初めから普通に「普通」ランクにして欲しかった。

デビオクに家電が陳列されてる件について（後書き）

とりあえず冷蔵庫と某ゴキブリを出してみたかった。
この後も出るかどうかは不明。

因みにネタになった連中について

・ブキミちゃん、花子さん、箆笥ババア

確かペルソナシリーズのザコにこんなのが居た筈。箆笥ババアは2
だったかな？

・ポルターガイスト

悪魔城ドラキュラシリーズより。勝手に動くのだが、きちんと命令
を聞いてくれるならかなり便利かもしれない。

・ニヤルラトホテプ

クトゥルー神話より。千の顔を持つ、多分最近最もメジャーな邪神
様。色んな形で色んな設定を持ち色んなゲームに出ている。

・メタトロン

SO2より。やられ順は三番目だが、十賢者がガチバトルしたら確
実に上位に食い込むと思うんだが。

・冷蔵庫

とある魔術の禁書目録より……というかその二次創作等でよく出る
ある登場人物の一形態。あくまでネタなので深く気にしないでくだ
さい。その人物は割と好きです。

・ベルグバウ

第三次スーパーロボット対戦 より。ゴキブリと呼ばれ親しまれる
(?) 機体。後期機体は更に悪役チックに変貌。パイロットは通称
久保。

1%は低確率だが、その1%に当たる確率はヤケに高い(前書き)

どうも間が空いてしまいすみません。

何か暇が……うーん、困った。

1%は低確率だが、その1%に当たる確率はヤケに高い

マニアックランクから普通ランクのオークション会場に移って、改めて商品閲覧。

コボルトやカブソ、フェアリー……じゃなくてピクシー。あとは羽の生えた着物のアクマやさつき何体かぶっ飛ばした、やたら凄い勢いで距離を詰めてきた下半身の頼りなさそうなワイラとかいうの。初めっからこっちを紹介して欲しかった。

まあ、教えてもらった以上は、折角だから此処に来るたび覗いてはみる心算だが。

それはそれとして。

これで、何度目のアクマ合体だっけ？

「5回目だ。序に言えば合体事故も同じ回数だな」

ありがとう。

そつだよな。俺の勘違いなんかじゃないよな。

つまり、今の時点で俺達は合体素材を合計10体も無駄にしている訳だ。

……一応、支配人さんがアフターサービスとして事故で出来たアクマは買い取ってくれてるが。

ところでそろそろ俺もキレそうなんですが。

どづいっ事だよコンチクショウ。

「そつ申されましても……」。

私どもといたしましても、この様な事柄は初めてです。

勿論、機器にも絶対はありませんから稀にこういう事はありますが、お客様の場合は……その、何と申し上げましたらよいか……」

支配人のオッサンも困惑顔だ。

「どうやらこんな事は滅多に起こり得ないらしい。まあそりゃそうだ。しょっちゅう起こってたら誰もが困るだろう。とりあえず現状、困ってるのは俺達だけのようだけど。」

しかも、合体事故によって誕生するアクマは、必ず決まって邪神。それも毎回姿形が違うのに同名という訳判らん奴だった。

その名もニヤルラトホテプ。

名前が変だという理由で俺が大却下したあの黒人神父と同名の、そして恐らくは同じ存在だ。

ステータスは微妙にバラつきがあるみたいだが。

しかし、道化師っぽい奴、謎の爆乳眼鏡美人、宇宙人っぽいナニカ、手の平を顔の前に翳している眼鏡の美形、と来て、最後は王冠被った黒タイツですか。

多種多様すぎるのも大概にしるよ、変な名前の邪神さんよ。

しかし困った。

アクマ共は戦いまくって鍛えても一定以上には強くならんらしく、所謂存在の格、というか成長の上限を挙げる為には合体が不可欠らしいのだが。

こつも事故が起こりまくる上に俺らなぞでは扱いきれない様なアクマに出現されては、話が進まない。

このニヤルラトホテプ、俺らの四倍近いレベルなのだ（今俺18、一樹16）。もうね、どうしろと。

「コレを使えば良いんじゃないか？」

悩む俺に一樹が何やらピアスのようなものを持って現れた。
聞けば、ニヤルラトホテプ5体を買って取ってもらった金で購入したらしい。

まさか、それに全部使った訳じゃなからうな？

「確実に合体できるアイテムだそうぞぞ？」

それは良いんだが。

どうやって使うんだこのピアス。

やっぱ耳につけるのか？ 耳がない奴はどうするんだ？

「体にテキトーに括りつけければ良いんじゃないか？」

ああ、使い方は合体させたい相手の片方は右耳、もう片方は左耳につければいいらしい」

なんてお手軽な合体方法なんだろうか？

知っているのかと支配人のオッサンに視線を向けると、首を横に振られた。

どうやら、オッサンも知らないアイテムらしい。そんな良く判らんものをオークション品としておくなよ……。

という事で早速実験開始である。

徐に今現在残っている、購入の余りキャラであるピクシー一体と最初に俺がぶちのめしたコボルトに目をやる。

コラコラ、何処へ行くのかねお二方。お前らに拒否権なぞ与えんわ！

てな訳で早速実行した結果、新たなる仲魔が降臨した訳だが。

一樹がどつからか奪い取ってきた簡易合体表によれば、妖精ピクシーと闘鬼コボルトの組み合わせだと出来上がるのは魔獣という種族らしいのだが。

頭为天辺から足先まで、現れたアクマを眺め回す。成る程、魔獣、とって良いのかも知れないな、ある意味。

合体元のピクシーのそれを髣髴させるサラサラヘアー。

触れれば容易く千切れてしまいそうな、薄く透き通った背の羽。

そして容姿はコボルト。ていづか髪と羽をつけたピッチリスーツのコボルト。

位階というか、変態度数が上がった感じだな。

で、コレの名前は？

「判らん。COMP使ってみても、名前が文字化けしててさっぱりだ。

あと種族が「造魔」になってるな。この合体表、間違ってる様だが？」

やっぱり盗品はいくくないという事か。

しかし、名前が無いと不便だな。

とりあえず合体前のそれぞれから名前を取ってピクルトと名づけようか。

だが、このピアス。やっぱりおかしかったらしい。

何しろ、その後何回か使ってみたのだが、種族が「造魔」にしかない。

そして合体後の姿は基本的に合体前の二体のそれを合わせた感じだ。

よってちよつとアレなのもいる。そいつかそんなんばっかりだ。

支配人には買い取り拒否を食らってしまった。

ホント、どうしたら良いんだろつかこのちよつとカオスな俺の仲間
魔達。

1%は低確率だが、その1%に当たる確率はヤケに高い（後書き）

今日のネタ帳

・合体事故

メガテン、ペルソナシリーズより。デビルサバイバーにおいては起こりませんよ。自分はプレイ中、一度合体中にバグった事はありますが。

・ニヤルラトホテプ

前回は挙げたので今回はそれぞれの元ネタだけ。

・道化師っぽい奴 ジョーカー（ペルソナ2）。確かこれもそうだった様な。

・謎の爆乳眼鏡美人 ナイア（デモンベイン）。ナイアルトは無いんだらうか？

・宇宙人っぽいナニカ はいよるこんとん（WAシリーズ）。経験値稼ぎの友。作者は無印（若しくはF）と2が大好きです。2リメイクされないかな。

・手の平を顔の前に翳している眼鏡の美形 八雲辰人（朝の来ない夜に抱かれて）。プレイしたのは相当昔です。その時はなんとも思わなかったが、今にして思えばそういえばコイツも、な奴でした。因みにエロゲなので未成年者はニコ動にでもどうぞ。確か某スパロボMADでオチ担当をやったと思います。

・王冠被った黒タイツ ニヤルラトホテプ（デビルサバイバー）。何気に、ある意味で自分の知る這い寄る混沌の中で指折りの真つ当な姿だと思えます個人的に。

・ピアス

ドラゴンボールZより。合体で思いついたので出してみました。今

後は「スプレッド」とか「ヒラシヤ」の横に「ポタラ」が並ぶ……
訳無いか。

アリ地獄、又は飛んで火に入る何とやら

さて、前回計四体作られた造魔だが。

どうにかこうにか使っていたりする。というか金が尽きたので他の選択肢が無いというべきだろうか。

しかし、意外にこいつ等強い。因みに四体なのは一度に俺ら一人につき二体までしか連れ歩けんようだから。予備？ そんな余裕は無い。

何か意志薄弱でロボットみたいだから前のように話し相手には出来そうも無いが。

しかし代わりに、レベルが高い奴でもこちらの言う事を聞いてくれるのだ。

というかこいつ等、基本的に断るといふ事をしない様なのだ。

サラサラへアーに羽を持った犬顔のピクルト（ピクシー＋コボルト）

マッスルボディのヒゲマッチョなオーラ（オーガ＋ワイラ）

女物の服にか細い腕を通し農具を持った赤頭巾のやる気無い面構えと長い嘴のキキーヴィス（キキーモラ＋ビルヴィス）

そして最後、只管異色を放ち続ける唯一の高レベルアクマ、ジャングフロスト（ジャックフロスト＋キングフロスト）。

最後の一体の素材であるキングフロストは、こちらを哀れんだ支配人がニャラトホテプ共の代わりに、と期間限定で貸し出すとってくれたアクマだったのだが。

これと、合体対象のジャックフロストが、俺等が支配人の説明を聞いている間に、面白がってピアスをつけやがってくれたのだった。

オッサンに白い目で見られたのは言うまでも無い。

断トツに強い上判断も的確で、しかも言う事を聞く。

これで見た目と言動さえ自重してくれれば、と思いながら、今日何度目になるか判らないCOMPの回収を済ませていた。

しかし、これで何回目だっけ？

ガラ悪いCOMP持ちにCOMPと食いモン強請られたの。

「5回目だな。」

人数が少なく、見た目は学生。良いカモに見えるんだろうな」

実際は地雷だけだな。

それも、踏むと下半身が吹き飛ぶような超強力な奴。

COMPのハーモナイザーがあるから、その辺の兄ちゃんでもトンデモ力を振るえる訳で。

だから、COMPを不意打ちなり何なりして、発動前に弾き飛ばしてしまえばという考えに至ったのは、どうやら俺達だけではないようだ。

まあ、COMPさえなければ、生身なら数が多かったり荒事に慣れてるヤクザ絡みの連中は強いだろう……普通なら。

「覚悟さえ決まれば強盗や警官をぶっ飛ばせる学生がゴロゴロ居るのが麻帆良だからな。」

相手が悪いと言わざるを得ないな」

拳銃の弾丸をバットで打ち返した時の連中の顔は見物だった。

打ち返した弾丸は当たらなかったが、腰を抜かしたまま錯乱して乱射してきた弾丸を全て打ち返してやったら恐慌状態に陥ったし。

お陰様で奪うのは楽だった。というか寧ろ持ち物を献上された。どっちがモヒカンか判りやしない。

「しかし、アレだな。」

今日は何事もなく終わりそうだな、残念な事に」

最後の一言が余計だが、まあ、そーだな。

何事もなく終わりそう……でもなさそうだな。

ちょうど武芸館の前を通りかかったのだが、信じられん事に歌声が聞こえるのだ。

てか、これが空耳でないとしたら、この非常時に何やってんだろうか？

ただのアホなのか自殺志願者なのかはさっぱりだが、とりあえず興味が沸いたので深入りしないようにしつつも様子見に行く事にする……見られんように気を使い、敢えて建物の裏側から。

と、そこでは今正に、赤い髪のクール系な女がアクマに襲われる一秒前状態だった。

咄嗟に腕を伸ばし、肩を掴んで胸元に引っ張り込みつつ、間抜け面を晒すワイラの顔に蹴りを入れる。

無論、ハーモナイザーは起動済みだ。

よお、誰か知らんが大丈……あ。

とりあえず体勢を立て直しつつ、助けた相手の女に視線を移し、俺は其処で固まった。

相手の女なのだが、着てる服の肩紐が片方切れてしまっていたのだ。

俗に言うポロリだ。しかし、女の反応は鈍い。

「ん……、ああ、済まないね」

礼は良いから、早よ隠せよ。

そして出来れば離れる、全力で。

色んな意味で危ねえから。

「とりあえず、色々の内の一つの意味ではもう遅いっばいぞカナちゃん」

一樹の言葉に、入り口側のほうを見てみれば、其処にはいつぞやの三人組の姿が。

まあ、昨日も会ったけど。

「あ、アンタ……！」

こ、こんな状況で……じゃなくて！

ハルさんに、何やってんのよ……！！」

どうやら相当お冠のようだ。

激しくどもっているユズの言葉には、こちらの意見を聞き入れようという意図は存在しない。

どころか、下手したらアクマとは別の第三勢力扱いでまとめてボコにされそうな勢いだ。

何かフォローしてくれることを期待してハルとやらに視線を向けるが何も言わず手に持つ機械を弄くる女。

ていうかちゃんと着るよ服。肩紐ずれてんですけど。そんなんだから簡単にポロリすんだよ。

何なんですかそれは？ 新手のファッション？ 露出魔？ 頼むから他所でやってくれ。

あと何かフォロープリーズ。あの女、明らかに俺らもぶちのめす心算っぽいんですが。

とりあえず無抵抗でやられるわけにも行かないのでこっちもCOM P起動。

それに伴い現れる、何とも歪な見た目のアクマ達。

そして、ユズの横に降り立つ、我らが（認めたくないが）エース、ジャングフロスト（Lv34）。

オイジャングちゃん、どっちに立ってんの？

そっちじゃねえんだけど。

「オイラは可愛い女の子達の、み・か・た・ホ！」

このタイミングで裏切るとか、お前に忠誠という二文字は無いんかい。

「寧ろ倍近いレベル差で従ってた今までを異常と思わないのがどうかしてると思うホ」

全くの正論ありがとっございます。

けどドヤ顔は止める。

しかし、只でさえヤバそうなのにさらに危機的状況だ。

土壇場でのアクマの裏切り。しかも殆どソイツに敵を蹴散らすのを任せてたせいで他のはあんま育ってない。

そして一向に弁護してくれないハルなる女性。もしかして見た事怒ってんのか？

「早くこっちへ！」とか、もう完璧俺ら患者に仕立て上げられて

ますな。

どうしようか一樹君。

「詰んだかもな。

あとは神に祈りでも捧げて見るか？」

俺は神は信じない。

救ってくれた例も無いし。

どうせなら悪魔に祈ろう。若しくは邪神に。

という事で、困った時の（邪）神頼み。

人、それを現実逃避という。

だが、信じられん事だが、どうやら神は微笑んでくれたようだ。

突如、何か良く判らない圧迫感と共に、俺達と、3人＋ハル＆ジヤングの間に稲妻と共に、何かが降臨した。

が、それを確かめる気は俺には無い。

一樹と示し合わせて稲妻に注視し身構える連中に背を向け、加速装置。

……いや、普通のダッシュだけだね。

そつえばハルさんとやら。

結局説明は無しですかそつですか。もう二度とお前は助けねえ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4747u/>

でびさばっ

2011年10月6日04時05分発行